

名古屋市博物館

尾張の歴史・文化的地域性と伊勢湾との関わりに関する考古学・民俗学的研究

調査研究期間：平成 29 年 6 月 1 日（木）～平成 29 年 11 月 30 日（木）



【調査研究の内容・目的】

- 名古屋を中心とする尾張・知多の歴史・文化の基層的地域性には伊勢湾との深い関わりがあるが、現在ではほとんど認識されていない。尾張・知多の海にまつわる文化史を学問的かつ観光的に楽しんで学べる特別展を開催し、海の学びとするために調査・研究する。
- 尾張・知多地域の海に関する考古資料・文献資料・民俗資料を調査研究し、古代海民集団の実像、基層的な海の信仰・神話、近世～近代の漁撈や海底・沿岸地形などの文化史を復元することを目指す。また、現代の伊勢湾各所の景観を映像的に記録し、後世に向けたその景観の記録保存を図る。
- 本調査研究では当地方に根ざした海と関わる文化財や景観を抽出し、その由来・背景や当地方の文化形成における意義を見出す。その成果によって、海に育まれた当地域の文化史的な地域性を広く学んでもらうことができる。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

1. 調査研究内容の詳細

【調査研究代表者】

■藤井康隆（名古屋市博物館 主任学芸員）

【調査研究分担者】

■長谷川洋一（名古屋市博物館 学芸員）

■杉浦秀昭（名古屋市博物館 調査研究員）

■酒井康平（名古屋市博物館 学芸員）

【実施計画】

■1カ年計画 1年目

【主な調査研究対象など】

■公益財団法人徳川黎明会 徳川林政史研究所

■慶應義塾図書館

■南伊勢町 愛洲の館（宮山古墳出土資料）

■志摩市歴史民俗資料館

1. 財団法人徳川黎明会 徳川林政史研究所（東京都豊島区） 平成 29 年 6 月 28 日
「熱田羽城海中漁場案内図」（文政三(1820)年）、「愛知郡天白川下流海辺図（柴田新田絵図）」（文化十一(1814)年以降）、「粕江川築出絵図」（明治七(1874)年）を閲覧調査して、各資料の文字記載を解読しながら、現代の地理・地形と比較検討した。それによって、名古屋沿岸部における漁場と魚種、近世の埋め立て・築堤による景観変化の過程について大きな知見を得た。

これによって、特徴的な地域をクローズアップした形で、前近代の名古屋沿岸部の海と関わる環境・景観とくらしをより具体的に学ぶ材料とすることができる。



《慶應義塾図書館》入口



《調査のようす》

2. 慶應義塾図書館（東京都港区） 平成 29 年 6 月 29 日
「漁具絵図下調 知多郡郡役所」（明治十二(1879)年）を閲覧調査した。同資料には知多半島各地において江戸時代～明治初期におこなわれた漁法や漁具が村単位で図解されている。その漁法・漁具や漁獲物など漁撈の実態を現在の同地域の状況と比較検討するとともに、特徴的な漁法・漁具を抽出して、現在にまでつながる同地域の漁撈文化の特色を見出した。

明解で親しみのもてる絵柄で漁法・漁具が村単位に分けて描かれており、寸法や方言での呼称なども併記されているため、本調査成果の活用によって知多半島沿岸の漁撈文化を地域に根ざして身近に感じながら学ぶことができる。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



《宮山古墳出土品調査のようす》(愛洲の館)



《宮山古墳出土 須恵器》(愛洲の館)

3. 南伊勢町 愛洲の館(三重県度会郡南伊勢町) 平成29年7月19日

南伊勢町 宮山古墳の出土品を実見調査した。高い階層の首長層の副葬品である双龍環頭大刀の詳細な特徴や、釣針と考えられる鉄製品を確認した。また、出土した須恵器の器形・製作技法・焼質・胎土などの観察から、伊勢湾をはさんだ対岸奥部の尾張・伊勢北部・近畿など、広範囲の窯業製品が同古墳で用いられたことが明らかとなった。

宮山古墳の出土資料は、古墳時代に尾張・伊勢北部と志摩の間に海を介した交流が盛んであったことを示し、人々と物資をつなぐ伊勢湾という海のネットワークを知ることができる。



《宮山古墳の現地からの眺望》
宮山古墳は丘陵突端部に立地し、半島先端部の小さな内湾入江を望む。



《日和山古墳から望む五ヶ所湾湾口部》
宮山古墳にごく近い丘陵の最高所に立地し、石室開口方向は五ヶ所湾湾口の外海を望む。

4. 宮山古墳・日和山古墳(三重県度会郡南伊勢町) 平成29年7月19日

志摩南部の海民集団を代表する首長墓と考えられる宮山古墳・日和山古墳の現地を踏査し、古墳の規模・立地や眺望を把握した。宮山古墳は優れた副葬品のわりに小規模で立地も内向きであるが、それに対して近在する日和山古墳は比較的規模が大きく外界に臨む。当地の海民集団における首長の階層性の差異を知ることができた。

現地踏査の成果を出土資料の調査成果と合わせて宮山古墳の首長としての性格をより詳細に考察・紹介することで、古墳時代における海民集団の具体像について学ぶことができる。



《志摩市歴史民俗資料館での調査状況》(1)



《志摩市歴史民俗資料館での調査状況》(2)

5. 志摩市歴史民俗資料館（三重県志摩市） 平成 29 年 7 月 20 日

主に志摩市域の古墳出土品について調査した。志摩の海と関わる代表的な古墳群として志島古墳群があり、そのうち発掘調査が実施されたおじょか古墳・塚穴古墳の出土品について実見調査した。いずれの古墳も海に臨んで立地しながら、おじょか古墳の出土品には海上交流や海の生業を具体的に想定させる要素がほぼ皆無であるが、他方で塚穴古墳の出土品には伊勢湾対岸の尾張猿投窯や三河方面との関係を想起させる須恵器・土師器が存在するという差異を見出すことができた。

こうした知見を活用することで、古墳時代の伊勢湾沿岸部の海を介した交流を示すとともに、沿岸部に暮らす人間集団の性質に多様性があったことを知ることができる。



《塚穴古墳の横穴式石室内部》



《崩落した上村古墳の石材》

6. 志島古墳群（三重県志摩市） 平成 29 年 7 月 20 日

志島古墳群の現地踏査をおこなった。塚穴古墳と上村古墳の立地・規模・横穴式石室の構造的特徴について実地に調査することで、出土品の様相の所見と合わせて、この古墳群の造営集団の活動圏が伊勢湾対岸の知多半島ないし日間賀島・篠島・佐久島方面と関わる広い範囲に及んでいた可能性を見出すことができた。

この可能性を追究し公表することで、沿岸部に暮らす海民集団は陸地世界の常識とは大きく異なり統治権の境界を越えた地域圏を体現しており、海は往来困難な障害ではなくむしろ広域的活動を可能にする舞台であったということを学ぶことができる。